

## 「新しい小布施町立図書館」基本構想案 第1回 意見交換会 会議録

日 時 平成19年8月7日(火) 19:00~21:50  
場 所 公民館講堂  
出席者 参加者51名(町内30名、町外6名、職員15名)  
関係者15名(市村町長、市川教育長、富岡参事、池田推進幹、涌井GL、江本  
図書館プロジェクト 9名)

### 議事録

#### 1 開会

#### 2 町長あいさつ

#### 3 基本構想案の説明

—説明(省略)—

#### 4 意見交換

(参加者 A) 写真の先進地はどこですか。また、プロジェクトチームが実際に行った先進地を教えてください。

(事務局) 写真は、富士見町と下諏訪町です。プロジェクトチームは、富士見町と下諏訪町のほか塩尻市にも行きました。塩尻市は、駅前再開発と合わせた中で現在、図書館の建設事業を進めている時です。

(参加者 B) 基本構想が総花的でとりとめのない印象です。町にとっての大事業ですが、費用や運営については理解されにくい環境なので、基本的に理解を求めながら進めることが大事です。また昨今の財政的な問題から示してほしいと思います。

どこから始めるなどの優先順位には、財政的なこと、人の問題を考慮して慎重に決定してほしいと思います。

基本構想の「場」の表現が、ハード(施設・建物)なのかソフト(サービス)なのか、提供するものが解りにくいです。世代を超えた共通の図書館と言っているが、小布施の関連する団体や施設の重複する部分の整合性が感じられないので説明しながら進めてほしいと思います。

(事務局) 旧幼稚園舎に建設したいと考え、現在ある公民館、北斎ホール等々の一体的な生涯学習の拠点として考えています。それから近隣の大学図書館との連携を図り、利用者の利便を図る考えがあります。

どこから始めるかの優先順位は意見交換会、分科会等を設けて進めていきたいと考えています。予算的な問題、人的な問題等々がある為、年次計画を立てて取り組んでいきたいと考えています。

建設費は、コンピュータ化まで含めて3億5千万円ほどを予定しています。現在18年度末で1億2千5百万円ほどの積立金があります、そこへ18年度から

19年度への繰越しの2億8千万の半分を積み立てたい。今後、議会へ諮って決定をしていただく予定です。2億6千万ほどの財源は用意できます。その他にまちづくり交付金というようなことで20%~30%、3億5千万規模ですと6千万~7千万くらいの交付金がつくのではないかとということで、財政的には対応措置を取ってあります。

世代間を超えた図書館の建設につきましては、今まで各検討会等ご意見をいただいています。そこで年間300日位開館できるような体制を作っていきたい。今まである公共施設に比べ、住民の皆さんがより利用できやすい場所として考えています。

(参加者 C) 「情報発信の場」についての事例が、情報を集め公開しただけで、発信になっていません。建物から外に出た発信の仕方、何か面白い事例があれば知りたい。

また先進地の成功では、「どういう町の状態があり、こういう図書館にして成功した」ということと、その中でも失敗はなかったのかということを知りたい。失敗も学んで行かないといけないと思いますので、調査の中で、いくつかあったら教えていただきたい。

(事務局) 情報発信の場の関係は、非常にその点は弱い部分。今後また皆さんのご指導、ご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

(参加者 D) 現在の町立図書館の職員数では、300日の開館や、これだけのサービスは不可能です。今も、よみきかせ等もボランティアの方に任せきりの状態と聞いています。今後、館のサービスの部分に関わる職員を整えるということも、新しい図書館を作るということの中で、町として考えているのかどうかお聞きしたい。

(事務局) 年間300日の開館も現在、皆様方のご意見をお聞きして開館の時間帯、あるいは年間の開館日数等を定めていきたい。

職員の配置の関係は、図書館と、北斎ホールや、公民館、それとの一体の形の中で運営をしていくということで、職員を図書館のほうへと考えています。

また館長については広く公募をかけたいと考えておりますが、皆さんの中でどういう方が相応しいのかご検討をいただきたい。

(参加者 D) 小中学校の図書館を、町立図書館として、どうバックアップしていくのか、また小中学校の図書館にきちんと1名ずつ司書を配置し、町の図書館との連携を図るということも新しい図書館づくりの中で考えていただけるかお聞きしたい。

(事務局) 小・中学校の司書に関しても、図書館との連携を深めた場合、今のままで良いのか検討を考えていますのでご意見を頂ければありがたい。

(参加者 D) 図書館は立派な建物が建ったとしても、人がいなければ、その建物も資料も活かせません。ボランティアが機能的に動くには、考えて調整する人がいて指示系統がハッキリしてこそ活動できます。ボランティアを活かすのであれば、ボランティアを育成して研修をして、そのボランティアを活かせる人を町として用意出

来なければ、このサービスというのも絵に描いた餅になってしまうのではないかと  
思います。

(参加者 E) プロポーザルの日程が短い、一番大切なプロセスだと思うのでお伺いしたい。

(事務局) プロポーザルの関係は9月上旬発注で、9月下旬締切というこれは、非常に難しい  
と思います。ただ10月中旬には審査会を開いていきたい、最大限10月上旬。  
プロポーザルには40日ぐらい必要ではないかと考えております。

(参加者 B) 意見交換会や分科会を行なうというが、何処が担当して集約するのか。この意  
見交換会3回と分科会というのはまた別にやる訳ですか。

(事務局) 意見交換会は、一応今後、今日は全体での意見交換会ですが、それぞれ「学び  
の場」「子育ての場」、それから「交流、情報発信の場」という3つの部会に分か  
れて、皆さんのご意見をお聞きしていきたいと考えています。

(参加者 B) 意見交換会などに合わせてやらないと、プロポーザルの審査の委嘱もうまく行  
かないのではないですか。

(事務局) プロポーザルの審査員の委嘱につきましてはプロポーザルの期間などもござい  
ますので、あらかじめ審査員さんにお集まりいただいて、期間の問題、それから  
審査方法について、ご検討いただきたいと8月の第5週あたりには審査員の皆様  
のご委嘱を考えているところです。

(参加者 E) 図書館など公共施設を造る場合、どの部分に空間が必要か、逆に何処には新し  
い技術を盛り込むのか。強弱やメリハリが必要です。現実設計をしていく時には、  
この部分には十分な空間が欲しい、この部分はコンパクトにという発想がないと  
収斂しません。

また、分科会に分かれて個別に議論しても、全体的なバランスの問題は、何処  
でやるのでしょうか。集約して、町としてこの図書館にどのような希望、期待を掛  
けるのかということ、まとめていくステップがなければ難しいと思います。

進め方の問題がありますが、分科会の議論は最終的に空間にはどういう風に反  
映するようになるのか考えて進めた方が良いでしょう。

図書館では基本的なこと、子ども達が本に出会う場所ということがすごく大切  
です。身体的な、初見的なそういう経験と、IT、情報ツールを使つての発信の仕  
方を同時に考えていかなければいけないのですが、そういう事を分科会に分かれ  
てこんなに短い時間の中では議論は難しいのではないのでしょうか。

時間が短いと受けた意見を返すことが(フィードバック)できない分、議論の  
進め方の工夫が必要です。

ただ、議論は膨大なものですが、レベルを落とす必要はないと思うし、言っ  
ていることは見えます。しかし、そのためにはどうやって空間を使つていくか、ど  
うやって技術に転化するか、今を支える技術は何なのかとか、そういう情報に踏

み込んでいかなければプログラムは組みあがっていかないと。その辺の時間や、検討の仕方等を押えていないと難しいと思います。

(参加者 F) 図書館という私たちが持つイメージと、今、聞かせていただいた図書館と全然違う感じがします。

今後を考えると、バラバラにあったものが総合化してあった方が良いと思います。それが、今後の図書館のイメージなるのではないのでしょうか。

空間を、「学びの場」である静かな部分と「子育て、交流の場」という賑やかな部分、それを建物の中でどうやって作るのか、本当に難しい問題です。それについては、こういう場で一緒に知恵を出し合う形でいければ良いかなと思います。

また、そういう議論を短期間でおこなうとすれば、皆で知恵を絞れば良いと思います。

人という問題ですけれども、施設だけ建てても人がいなければサービスが出来ません。ボランティアコーディネータのような知恵を持った人がいて、サービスを回していくには 10 人位の人材が必要です。しかし、財政的に、町政の中では難しいは思いますが、ボランティアコーディネータになるような人が、如何に上手に人を育てながら、町民がここに参加していくという形でもって、この場を考えていった方が良いのではないのでしょうか。

少子高齢化の中の子ども達を、如何に私たちが、町民が参加の場として、この図書館というものを使って進めていくかと言うような発想で、子育てを含め皆で参加して運営をしていくのも一つの方法かと思えます。

(参加者 B) 総体的に図書館を作ると言うことで考え、どういう形で集約して、どういう風にプロポーザルに持っていきかが良く解らないのですが。

総花的という意見は言い過ぎているかも知れないが、ある物を並べているくらいでは駄目だと思います。町全体を見たバランスで進めてほしいと思います。

(事務局) 意見交換会などについては、計画の段階から住民の皆さんに参加してもらい、運営の方法、それから中身や事業内容についてもご検討いただきたいと考えました。職員も一緒に計画段階から加わりながら意見交換や検討を重ねて進めていきたいと考えています。

(参加者 B) 最初に地域の説明会があったとき、教育委員会の方へレポートを出しました。この場では、図書館の内容が具体的になって提示されるべきではないのでしょうか。どこでプロポーザルに出すそのものを集約して、何処で進めるか、しっかりと決めてほしい。叩き台として出していただきたい。

極端な今までの小布施の例で、意見を言う、言ったのに聞いてくれなかったじゃないか、そんな事だけが残ってしまう、その辺を良く考えていただきたい。

(事務局) 意見交換会、それからその後プロポーザルが出てきた時点では、平面図等、簡単なものが出てきますので、そういうものをワークショップ等々で、意見を収斂

させながら今後つめていくということです。

最終的な決定につきましては、教育委員会なり町で決定をしていきます。

(参加者 F) 今までは、役場が全部用意をして皆さんの意見を聞き、大体の原案でこれを修正していくという形の手法でした。

しかし今回の場合は、皆さんの意見を聞いて、皆さんの意見を集約した先に理念に基づき建物をつくる方法で進めたいということですね。確かに建物が出来ても人がいないと動かない。動くものを作る為にはどうしたらいいかといえば、やはり住民参加がないと動かない。だから最初の段階から、皆さんのかなり幅広い意見を聞いてそれを集約する形で、ある程度理念を方向として出して、それを基に建物を作ろう、それでサービスの基本ともいえる人を置いて動かしていこう、ところがなかなか人がないですから、少数の人で回す為に人を募っていこう、住民参加、あるいはボランティアの人たちの力を借りて進めたい、そういう発想で皆さんに集まっていたのではないかと思います。

(参加者 C) 質問ですが、館長の公募が、スケジュール的にずれているのではないのでしょうか。計画の中心になる人である館長が、計画の最終段階に入ってくるようになります。その館長を交えて揉んでいかなければならない時期からずれているのは。

(事務局) 本来ですと、図書館建設計画の最初から加わっていただかなくてはいけないところなのですが…段取りが悪くて申し訳ありません。9月の議会で補正予算として上げていきたいと考えています。

(参加者 F) 館長は全国公募でなくても良いのではないのでしょうか。もう少し、皆さんと意見交換だとか理念を共有できる人が良いのではないのでしょうか。やはり、現況の中で大体この方向でという案を教育委員会の中で考えていただいた方が、今後を考えると良いと思います。

(参加者 E) やはり皆さんの意見を活かして案を作っていくという初歩的な考え方は正しいと思いますが、本当に良い建築を望むのであれば、やはりその案が立ち上がってくるときに、規模ですとか、ここまでは議論しておかないとならないという部分があります。せっかく案を作っても設計者に伝わらなくては設計に活かされない、そういう状態が起こります。

スケジュールでは、建築する、設計する、物を作っていくことについての配慮をもう少ししていただきたい。

イメージを言葉にするのは非常に大切なことだと思います。公共施設を造る為にはイメージを言葉にしてキャッチボールする時間が必要です。それは設計者がくみ取る場合もありますが、その設計者に私たちはこういうものを造りたいとはっきり言う心がけ、心積もりで皆が集まり議論ができますか。

住民主体でおこなう時、様々な中から信用できるものを選んでいくためには、もう少し町で議論した物を話して言葉のキャッチボールをしていかなければなら

ないと思います。もし、今のスケジュールでおこなうなら、議論の仕方を本当に良く考えて進めて欲しいと思います。

(事務局) 今回の図書館建設の場合、プロポーザルコンペでまず、業者を先に決めたいと考えています。ソフトとハードがどうしても切り離せないため、キャッチボールを何回かやる中でしか最終型が決定してこないと考えます。あらかじめ、我々の理念を基本的に理解をしていただいた業者に、決定し、現実的な設計を意見をいれて変更を重ねていくという作業が必要だと思います。

(参加者 B) プロポーザルの前にある程度決めておかなければいけないのでは。

(事務局) プロポーザルにつきましては、プロポーザルの募集要綱等、町が作ります。その際、プロポーザルの審査員には、建築家の皆さんを選考し、専門的知識の元に、実施要綱や町の原案についてもご意見をお聞きしながらプロポーザルに掛けていきたいと考えています。

(参加者 C) プロポーザルの審査員というのはどういう方達ですか。何が、基準で選ばれていくのですか。

(事務局) 検討中ですが、余所の例で大学教授、図書館の運営に関わっている教授、それから建築関係の教授等を審査員ということで選考しています。

(参加者 C) 小布施からは誰か出られるのですか。ここにずっと関係していらした人とか、またそういった人が来るのか、選ぶのか、知りたい。

(事務局) 選考については全然手をつけていません。ただ、塩尻市の場合、関わっていた人がオブザーバーという形で入っています。専門的な知識のある人に選考を依頼したいと考えています。

(参加者 C) 意見交換会等のリーダーがオブザーバーとして参加できるか、意見をいえるようにしたらどうか。

(参加者 F) 面白い図書館や今面白いことをやっている、10年20年先の図書館がイメージできる図書館の情報を私たちに提示してほしい。イギリスではこうやってやっています。アメリカは、クロアチアはこうやって町がすごく活性化しています。日本で九州はこうしています。北海道はこうしています。私たちの思う図書館、私の持つ図書館のイメージを払拭するような、今後10年20年先を読めるような図書館先進地というのをもう一回、教えていただければありがたいと思います。

(参加者 G) 基本構想を見てこれを全部やっていただければ、とても素晴らしいと思います。図書館本来のという部分で、お手伝い出来ることがあればと思って今日は参加しました。しかし、今ある数万冊の蔵書が、1800 m<sup>2</sup>の敷地に納めなければならない。そのために、本来の図書館の本棚等必要な面積や空間をきちんと把握しておいて欲しい。さもなければ、図書館の本当の基本、人に本を手渡すという、一番の根本の面積が削られてしまうのではないかという懸念があります。また、学びの場

だけでも、他の場に図書館としての後援、例えば町内の建物や今どこで何をしているなどの、いろいろな情報の提供が出来るし、コーディネートは出来ると思いますが、3億の資金で、これだけの面積に、一番効率よく、良い建物を作るとなると、何を一番にするかというような強弱、建物として実現させていくためにはどうしたら良いかということが必要だと思います。他にも例えば学校図書館と連携をすとか、六次産業センターにフルーツの本を置くとか、町内のいろいろな物をコーディネートするような、そういうお話をしていくことに参加していきたいとおもいます。

(参加者D) 基本構想で示されたものは、これだけできたら理想というものだと思いますが、スペースは限られています。この基本構想を見た時に全部詰め込むとしたら、地上2階、地下1階は必要ではないかと思いました。でも、そんなものを建てられるのか、あり方検討会の中では予算面でフラットの1階だけ、地下に書庫を作る事すら無理があるのではないかと。ですから、今の旧幼稚園舎の所に1階だけで詰め込もうとしたら、無理が出てきます。何処を削るかという話をしたとき、例えば学習室はきちんと区切られたものが必要だという意見はあると思うけれども、完全に区切られたものではなくて、外から見るとちょっと衝立で仕切られているタイプのもので良い考え方が最近はあるよと、そういう意見は分科会に区切られてしまうと、分科会でお互いに、これだけ欲しいという議論が膨らむだけだと思います。でもそれでは、今まで、あり方検討会や図書館づくりの会で話し合ってきたものと、同じ事になるのではという危惧があります。そうすると、この分科会の話は、設計図が出来て、この平面図の中に入れるという話が出てきてからするようになるのでしょうか。そういう設計図や平面図が出てくる前に話をしていくと、ただ理想だけが広がるので、それこそ3階建て4階建てにしなければ駄目とか、また、理想の図書館を造ろうと思うと、とても広いスペースが必要になってしまいます。では、何処を少なくするかというお話は分科会やワークショップにするのは構いませんけれども、平面図なり、ここまでが限界ですという選択の幅がある程度出てきてからにして欲しいと思います。

それから、学びの場の部分で気になりましたが、「新刊本、古書についての情報を充実」については既にインターネットを接続することで簡単に出来ます。「相互貸借」についても、すでに図書館間で仕組みが出来ています。ただ相互貸借の問題点は、郵送の予算が必要であることと、人の手間です。本が何処の図書館にあるか探す、申し込みをする、図書館の間で借りる時の条件のやり取りをして、利用者に連絡して手渡す、利用者から返してもらって送り返すという、図書館側の手間の部分で、そこに人件費が必要になります。

「本の購入を可能にする検討」についても、確かに小布施には本屋がありません。しかし今はネットショップというものがあって、自宅に宅配をしてもらえる

というシステムも既に確立されています。それを、図書館が窓口になってする必要というのは、私は無いと思います。ただ、こういう事が出来ますよという情報発信をすれば良いのではないのでしょうか。また、インターネットが自宅にない方には、コンピュータは図書館で使えます、インターネットでこういう事が出来ますと紹介することで出来ることだと思います。そういう風に削っていくと、これはコンピュータが何台あって、こういう形で配置すれば何とか出来ますよとか、あるいは蔵書の検索ではインターネットを利用者に提供して他の館の情報が見られるようになることで解決されていく部分というものもあると思います。そういう話をしていくというのは、コンピュータの事に詳しい方、あるいは図書館間のシステム交換なんかの事に詳しい方という方に、こういう実例があります、こういう風にすればこれくらいの事が出来ますというお話を、やはり全体として共有することが必要だと思うので、そういう事の調整を、是非役場の方にもしていただきたいという風に思いました。また交流の場のこととか、情報発信の場のこともそうですが、専門知識を持った方がおられる筈ですので、そういう方の話をまず聞いて、そこができる、じゃあ小布施としてはどういふものが必要かを取捨選択していきましょうというふうなワークショップを持たないと、結局最初のところから堂々巡りをしているだけで、ここ 10 年位かけて、いろいろな所が上げてきた資料がまたワークショップの中で出てくるのではないかという不安を感じます。是非、その辺りの調整をしていただいて、良い図書館を作っていくお手伝いが出来たらと思っています。

(参加者 C) 今との関連で、本に関係することは賛成です。しかし図面を云々の部分ですが、もう少し夢を求めて意見を出し合って、それを今度建築家の先生達と現実化していく、そこに費用がどれ位かかるかなど、私達の方は箱を決めてしまうのではなくて、箱をはみ出る位の勢いで話し合いした方が良いと思います。

それから、この図書館には、映像を使ったりとか古文書を使ったりとかすることで、すべてそこには物語があると思います。物語という意識を持つことで、先程おっしゃったコンピュータが何台必要、そのコンピュータがここにあるから、子ども達がこういう風に育っていくのではないかとかいう物語を中に設定して意見を言い合う。ただ何台必要だ、何台必要だといっても、そこに何があれば良いここに何があれば良いというよりは、それがあるからどうなるという、次の物語があるという考え方の方が、建築家の方と話す時も、私達の言葉と建築家の方と言葉のキャッチボールが出来るのではないかと思います。

(参加者 B) 私はこの場に役場はこうやりますというような物をここに出して貰いたかった。それを叩き台というもおかしいけれど、きちんとした物にしていって、進めていくべきではないかと思います。早めに、こうやりますというところを役場なりに出していただきたい。次回の意見交換会では、そういう事をお願いしたいかと



思います。また、今度集まって同じ事を話しても仕方がないと思います。

(参加者 H) 私は母親文庫という形で、今まで図書館に携わってきました。私はそんなに知識のあるものではないのですが、母親文庫で私たちが一番勉強になったと思うのが、年に1度の県の図書館大会に参加したことです。この図書館大会に行き、図書館とはどうあるべきか、図書館は何が良いのかという討論会をします。

司書の問題についても、私たち本当に図書館のことについて解らなかつたんですけども、司書がない図書館はおかしいという問題は10年位前から言われていました。折角ですので、図書館って一体何だろうと考えた時に、学びの場の他にも、子育ての場、交流の場も必要だと思います。でも、本来の図書館って何だろうと考えたら、やっぱり本を読んだり本を探したり、学びの場が一番なんじゃないかとそう考えます。また折角の機会なので、私たち母親文庫や図書館の人と一緒に、県の図書館大会に参加しませんか。事務局で簡単に説明をお願いします。

(事務局) 県の図書館大会が10月27日、安曇野市で行われます。まだ募集をしておりますので、図書館を知ってもらうという意味でも参加していただけたらと思います。

本日参加の皆さんに、後日連絡させていただきます。

(参加者 I) 小布施では長い議論の過程があつて、今日を迎えているのですが、私達が集まりこれから、何回か議論する役割と言うのは、長い議論の中で出てきたものを一気に凝縮する段階だと思います。さらに時間が掛ければ良いというものではなくて、是非この短い時間を凝縮した形で毎週議論してまとめていくというような方法でやっていきたいと思います。ただ何度も意見がでて、次回から考えて3回しか意見交換の場がないと言うのは、あまりにも少ないと思います。その後もプロセスを増やす事で、議論不足という事にはならないようにした方が良いでしょう。

できればこのスケジュールの中で最大限、建築家の方のご意見を私達がいただいたり、また実際の建築に活かせるような日程を、役場の事務の方と議論していただいて一月なり二月なり延ばすことで、最短距離でできるものがあるならば、そんな案を進めていただきたいと思います。

また、費用や人材をどうするのかという話もありましたが、ソフトとハード両面で考えていかなければならない事だと思います。「場」という以上はサービスがあつての場だと思うので、例えば今の図書館にかかる人件費の2倍を町として負担しつづけるとか、一旦ある程度の枠という物を町民に対して示して、今の3人体制を6人でにするということも、出来るだけ早い段階で示していただきたいと思います。

ほかに人の募集だけでなく、お金も本も現状は足りないと思うので、町の内外から基金として、また本の基金も作って、内外から募集するというようなことも検

討いたいただきたいと思います。

また、小布施町の町立図書館の議論ですので、11,000人の図書館で、私達住民の中で出来る力量の図書館というのは限られていると思います。すでに勉強している人は県立や長野市立を頻繁に利用しているはずですし、周りの中野市にもとても良い環境の図書館がありますので、そういった近隣の図書館の連携というのもしながら、私達の町で最低限、面積やお金の中でできる物という方向で議論して現状認識というものをした上で、分科会の議論に入ったら良いのではないかと思います。

以上4点申し上げました。

(事務局) 最初の一点目ですが、意見交換会4回は、この4回に限られたものではなく、8月～9月にかけては週1回位、それ以降については随時開催をしていきたいと考えています。

(参加者 J) 子育てや、生涯学習の教室は図書館にいるのだろうかと思っていましたが、説明を聞いていけば、時代の移り変わりで、図書館も変わってくるのかということも解りました。

館長を公募するということですが、その館長には全権を委託できるのでしょうか。予算等の権限まで持つようになるのですか。また図書館には司書を絶対にこれは置いていただきたいと思います。司書の有無は、その図書館が優秀な図書館になるかならないかということだと思います。またそれは、校長先生の定年者とか、公民館の職員が兼務でできるようなことじゃないと思います。司書だけは、優秀な司書を置いて頂けるようお願いしたいと思います。

(参加者 K) 不思議に思ったのが、何か要求するだけ要求している感じが出ているので、それをすべて図書館の司書さんにやらせるというのも悪い気がしました。

(参加者 A) 結局、今回やろうとしていることは、従来のやり方とは違って、住民参加をする中で、良い図書館を作っていこうというところが、非常に大きなポイントではなかろうかと思います。では、どういう形で参加していくのか、ただ意見を言うだけで参加になるのか。意見を言うだけで、それで後は全部お任せという事になると、従来型になります。従来なら単なる意見交換会に終わってしまうところを本当に住民参加型とすれば、場合によってはこの会が意見を交換する場として、それが実際に建設する時に具体的になってくればそれが、建設委員会なり、そしてできてしまった後も、何らかの形で積極的に、運営までも関わっていく事が必要です。総花的ですが、本当に一つ一つ実現していくとすれば、本当に大変な人員と、能力が必要になると思います。これを本当にどうするのか、それを住民サイドの方でむしろ積極的に考えていかなければいけないことと思います。また、むしろ業者が設計されてからが、本当に設計のいろんなキャッチボールを、住民に対しておこないながら、少なくとも1年位、まあ半年ですむか、解りませんけれども、決められた設計士の方と色々な案を練りながら、良い物を

作って行くという形の方が現実的という気もいたします。

先ほどのプロポーザルの審査員の話もありましたけれども、やはり住民の代表も中に入れるべきではなかろうかと思えます。

(参加者 L) 全庁あげて取り組んでいる姿勢が本当に嬉しいと思えます。

ブックスタートについても小布施でも 6・7 ヶ月児に行なっていて良いことだと思っています。

歴史的にも第二次世界大戦後に 2 万冊も小布施には蔵書があったなど、素晴らしい小布施の図書館ですので、是非繰り越されているこの事業を進めてほしいと思えます。

(参加者 M) 小布施の中に来れる図書館が、町民の皆さんの熱い思いをどれだけ受けて出来ていくのだろうかと思えます。かなり成熟しつつある、土俵になりつつあると思えました。

基本構想については、これ以上精鋭化していくのは大変なご苦労があると思えますし、また方法も限られてくると思えます。この 4 つの柱というのは、全部複合して重なっているものだと思います。全部重なっている機能です。一つの場所が 4 つの、まあ 4 つとは言いませんが、2 つの性能を持っている、3 つの性能を持っている。重複して、複合機能を持っている、いわゆる図書館としての重要な役割と受けとめさせていただきました。したがって、それをすべて面積にカウントして足し算するとすると大変なことになってくると思えました。

もう一つですが、プロポーザルとコンペを併用なさるということに、少し疑問を感じます。先ほど皆さんから、ある程度案を限定して設計図を出させて、業者決めて皆さんの意見を入れて直していくのだと。これは大変危険なことだと僕は思います。きちっとした理念を示して、それに対してどういう考え方を示すかと言うのが、プロポーザルの方式だと思っています。そこで、具現化した図面を出して良いの悪いのという話になるということは、いわゆるコンペと何も変わらないと一般的に解釈されています。

(参加者 N) 私達は、この計画を作るということで最初から参加しています。平成 13 年度の時から参加して、経済的な事情等で中断されましたが、こういうふうに参加していただけて感謝することだと思えます。それで、最後に出来上がるまで、極力参加しながら皆さんの広いご意見をお聞きし、また私達の要望も出来る限りいれたいと、そういう気持ちで参加しています。

また、いろいろな施設が盛込まれている訳ですが、計画の段階では、やはり多目的に使える、いつも 1 日中、それを毎日、1 年中使う訳ではないので、申し込みなどを取って、多目的にいろいろな人に利用していただく、極力、お金等を節約しながら運営していかれるようお願いしてきています。細かい計画についてはやはり素人ですので、何処まで、どんな風にできるかということには解りません。

また世界の中の図書館のあり方というものを知りたい方には、「未来をつくる図書館」という本をご紹介します。この内容には、今までの参加者の意見ですとか、ボランティアの方法ですとか、高齢者がどういう風に図書館と関わりながら運営していけば良いのかとか、具体的なことまで含まれておりますので、ご覧になってください。将来に夢を託せるような、いずれ年をしても、やはり目を輝かせられるような、そんな図書館づくりが出来るかもしれないという夢を紡がせていただける本だと思っております。

(参加者 G) 小学校と中学校の放課後図書館が開いていない状況があるというのをお聞きしまして、やはり読む力を育てるのは考える力を育てることですので、是非、学校の図書館も開けられるような形でお願いしたいと思います。

(参加者 O) 私もあり方検討委員会に出席させていただいて、いろいろ意見を言わせていただいてきましたけれども、その時は小布施の人口が1万2千人位だから、開架図書は何冊位が必要だとか、理想だとか、あと閉架図書はどれ位必要だとか、そういう具体的な数字もでましたが、今回具体的なことがなくて、沢山理想が詰まっています、何か私達がやってきたことが、あんまり進んでいないのかなという印象を受けました。

それから、途中から館長を公募するというのは、私もちょっと賛成できません。なぜならこの小布施町のことを良く理解した方に、是非やっていただきたいという思いがあります。

(参加者 P) 今の段階で総花的はよろしいのではないかと思いました。どの段階で、理想が詰まっているものなのかはわかりませんが、その理想を語れなくて何が出来るのかと思います。ただ、今の段階が理想を語る段階なのかどうか解りませんが、今後議論されている中で、優先順位を決めていくところは決めて造っていくのは良いのではないかと思いました。

(事務局) 沢山のいろいろな立場、あるいは角度から、ご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

これからも意見交換に参加していただきたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

今日、いろいろご意見いただいた中で、分科会いかななものかというようなご意見が多かったように思います。ここの予定表にもございます通り、第2回の意見交換会を8月の第4週辺りに、開催したいと思います。